

CVP 12.5(1)でのOpenJDKのインストールと移行

内容

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[背景情報](#)

[CVP 12.5\(1\) Oracle JREのOpenJDKへの移行](#)

[CVP 12.5\(1\)aインストーラ](#)

[OpenJDKを最新パッチに更新](#)

[関連情報](#)

概要

このドキュメントでは、OpenJDK JREに準拠するようにCVP 12.5(1)サーバを設定するさまざまな方法について説明します。

前提条件

要件

次の項目に関する知識があることが推奨されます。

- Cisco Unified Customer Voice Portal(CVP)アプリケーション
- OpenJdK

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、特定のハードウェアではなく、CCE 12.5(1)バージョンに基づいています。

このドキュメントの情報は、ラボ環境に置かれたデバイスに基づいて作成されました。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、初期（デフォルト）設定の状態から起動しています。実稼働環境でこれらのタスクを実行する場合は、コマンドの潜在的な影響について理解しておく必要があります。

背景情報

12.5(1)以降のコンタクトセンターCVPアプリケーションは、Javaランタイム環境としてOpenJDKをサポートしています。このドキュメントでは、OpenJDK JREに準拠するようにCVP 12.5(1)サーバを設定するさまざまな方法を取り上げ、また、CVPコンポーネントの同じトレインでOpenJDK JREを最新パッチにアップデートするために必要な手順についても説明します。簡

単にナビゲーションできるように、ドキュメントは次のセクションに分かれています。

CVP 12.5(1) Oracle JREのOpenJDKへの移行
12.5(1)aインストーラ
OpenJDKを最新パッチに更新

CVP 12.5(1) Oracle JREのOpenJDKへの移行

既存の12.5(1) CVPアプリケーション (CallVXMLサーバ、OAMPサーバ、レポートサーバなど) は、Engineering Special(ES)16パッチのインストールにより、OpenJDK JREに移行できます。ESの詳細については、次のリンクを参照してください。

- Readme: https://www.cisco.com/web/software/280840592/156485/Release_Document_1.html
- パッチ
: <https://software.cisco.com/download/specialrelease/cee47b3552ab97ad2dc58712e34d727f>

ES_16パッチのインストール後、既存のC:\Cisco\CVP\jreフォルダがバックアップされ、同じパスのOpenJDK JRE 1.8.275フォルダに置き換えられます。したがって、以前のjreフォルダの下のファイルに対して行われた設定変更は、このESのインストール後に再度行う必要があります。また、java.securityおよびその他のファイルで行われた手動のセキュリティ保護も再度行う必要があります。



このパッチは、ES_16の後にES_18パッチをインストールする必要があります。これは、ES_1からES_14のCVP ESで発行されたすべてのバイナリをOpenJDK互換バイナリに置き換えるためです。ESの詳細は、次のリンクから収集できます

- Readme: https://www.cisco.com/web/software/280840592/156486/Release_Document_1.html
- パッチ
: <https://software.cisco.com/download/specialrelease/06daa0bd06513951b75625143746010>

注：ES_18も必要で、CVPアプリケーションにES_18より大きいパッチを適用する前にインストールする必要があります。

注：cvpはJAVA固有のキーストアではなくC:\Cisco\CVP\conf\securityフォルダにある独自のキーストアを使用するため、OpenJDKに移行しても、格納されている既存の証明書に影響を与えることはありません。

CVP 12.5(1)aインストーラ

12.5(1)バージョンにアップグレードされたCVPアプリケーションでは、新しい12.5(1)aインストーラを使用できるようになりました。仮想マシン(VM)にインストールされたJavaランタイム環境を除き、以前の12.5(1)バージョンと同じです。CVP 12.5(1)インストーラは、[https://software.cisco.com/download/home/270563413/type/280840592/release/12.5\(1からダウンロードできます\)](https://software.cisco.com/download/home/270563413/type/280840592/release/12.5(1からダウンロードできます)

12.5(1)a以降のインストールでは、ES_18パッチをインストールします。このパッチは累積的なもので、古い修正がすべて含まれています。パッチの詳細は、次のリンクから確認できます。

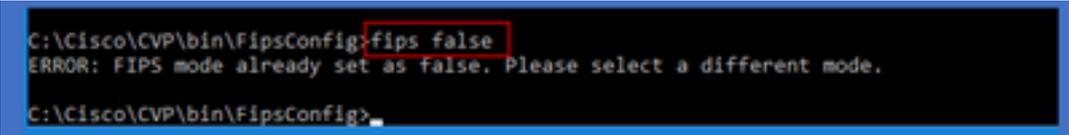
- Readme:https://www.cisco.com/web/software/280840592/156486/Release_Document_1.html
- パッチ
[:https://software.cisco.com/download/specialrelease/06daa0bd06513951b756251437460105](https://software.cisco.com/download/specialrelease/06daa0bd06513951b756251437460105)

注：12.5(1)a CVPサーバに18未満のESをインストールしないことを推奨します。

注：Call Studioアプリケーションに関して、古いバージョンから12.5(1)aへのアップグレードパスはありません。したがって、アプリケーションをバックアップし、12.5(1)a call studioを新規インストールする必要があります。インストール後のアプリケーションは、新しいcall studioを使用して再コンパイルする必要があります。

OpenJDKを最新パッチに更新

ステップ1:CVPサーバで連邦情報処理標準(FIPS)を有効にした場合は、引数falseを指定してC:\Cisco\CVP\bin\FipsConfigフォルダにあるバッチファイルfips.batを実行することを確認します。FIPSが無効になっている場合は、図に示すように誤ったメッセージが表示されます。



```
C:\Cisco\CVP\bin\FipsConfig>fips false
ERROR: FIPS mode already set as false. Please select a different mode.
C:\Cisco\CVP\bin\FipsConfig>
```

ステップ2：サイトからJava開発キット(JREUpdate.zip)をダウンロードし、CVPサーバ上の既知の場所にファイルを抽出します。たとえば、C:\Cisco\CVP\bin に保存します。

<https://software.cisco.com/download/home/270563413/type/280840592/release/CVP%20JRE%20Update>

ステップ3:Redhatサイトから最新のRedhat 64ビットOpenJDK JRE 1.8パッチをダウンロードし

、JDKキットをパーソナルマシンにインストールします。

<https://developers.redhat.com/products/openjdk/download>

ステップ4：インストールされているJDKからJREフォルダをコピーし、CVPマシンのフォルダ(たとえば、C:\JRE)に保存します

ステップ5：コマンドプロンプトからスクリプトを実行します(例：C:\Cisco\CVP\bin
>JREUpdate.bat apply C:\JRE)。フードの下のスクリプトは次の処理を行います

- 現在のcvp\jreフォルダをバックアップし、このフォルダの場所「C:\Cisco\CVP\jre.old」に保存します
- 新しいパッチを最新のJREフォルダとして「C:\cisco\cvp\jre\bin」に配置します

ステップ6：サーバを再起動します。システムが再起動すると、すべてのcvpサービスは、このパスC:\cisco\cvp\jre\binをチェックするように設計されています。このjre\binは、新しい更新バージョンのredhad OpenJDK jreパッチが新しいファイルで自動的に開始する新しいフォルダです。

ステップ7：必要に応じて、古いバックアップされたJREフォルダを削除できます。

関連情報

- [CCE 12.5\(1\)でのOpenJDKのインストールと移行](#)
- [テクニカル サポートとドキュメント – Cisco Systems](#)